

1. 科目名（単位 数）	体育科指導法（2単位）	3. 科目番号	EDEL2313
2. 授業担当教員	釜崎 太		
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習（指導案の作成と模擬授業による確かめ） 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	2年次春期の「体育」と関連性をもつ授業であることを理解すること。		
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。		
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1)小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2)学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3)模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4)現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。		
9. アサシメント （宿題）及びレポ ート課題	課題1 授業中に説明した「学び」を実現させる体育授業についてレポートをまとめる。（個人） 課題2 グループに分かれて模擬授業を行う。また、その際にその授業指導案の細案を作成する。（グループ）		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 体育編』 ※文部科学省 HP からのダウンロードも可能 【参考書】 樋口聡他『教育における身体知研究序説』創文企画、2017。 樋口聡『身体教育の思想』勁草書房、2005。 佐藤学『学びの快楽』世織書房、1999。 出原泰明『異質共同の学び―体育からの発信』創文企画、2004。 学校体育研究同志会『スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり 指導案の基本とプラン集』創文企画、2018。 【参考資料】 必要に応じて適宜配布する		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 (1) 学習指導案を作成し、模擬授業などを通して体育指導の方法を身に付けることができる。（学習目標 1） (2) 指導と評価の一体化の理解を図ることができる。（学習目標 2） (3) 意欲的に模擬授業を体験し、体育指導の実際を把握する。（関心、意欲） ○評定の方法 成績評価の規準 授業への積極性（50%）、レポート（20%）、実技の積極性（30%）の結果を総合的に判定する。		
12. 受講生への メッセージ	学校教育において理想とされる教師と子どもたちの関係は、「教える―教えられる関係（勉強型の教室）」から「学び育ちあう関係（学び型の教室）」へと大きく変化してきました。後者の「学び育ちあう関係」にもとづく体育の授業とはどのようなもののでしょうか。本講義では、模擬授業を通して基本的な体育授業の成立要件について経験的に学んだ後、「学び育ちあう関係」として実践される体育授業の成立要件について理解してもらいます。模擬授業には、運動に適した服装（体育着）で参加してください。体育館では室内シューズが必要です。デニムやスウェットは禁止です。		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション（本講義の必要性や意義、今後の授業の流れ、授業の約束等） ＊グループ分けを行い、本講義についての意識と意欲を高める。	事前学習	講義の内容と目的をシラバスで確認する。
		事後学習	各グループで模擬授業について意見交換する。
第 2 回	講義・グループワーク「体育とスポーツの相違・関係・歴史―ボールの授業に考える身体教育―」。体育とは、文化財としてのスポーツを教材とする身体教育であることを学ぶ	事前学習	体育とスポーツの違いについて調べる。
		事後学習	体育を身体教育として捉え直すときのポイントについて整理する。
第 3 回	講義・グループワーク「模擬授業の指導案作成 1」。体育科の領域構成、単元計画の立て方、教材研究のポイント、指導案の作成法、評価の仕方などを説明した後、各グループで指導案の作成に取り組む。	事前学習	教科書『小学校学習指導要領』を熟読する。
		事後学習	実際の指導案の書き方を確認し、模擬授業の流れについて考える。
第 4 回	講義・グループワーク「模擬授業の指導案作成 2」。各	事前学習	模擬授業の指導案を作成する。

	グループで指導案を作成し、その内容にそって、教材研究のポイント、指導案の作成法、評価の仕方などについて補足・指導する。	事後学習	各グループの指導案を読み、授業の流れを把握する。学習カードの作成など模擬授業の事前準備をする。
第5回	模擬授業①・②・③陸上運動系（走跳の運動遊び、陸上運動）の模擬授業と省察検討会。＊模擬授業評価（相互評価および教員評価）の観点は、ア）チームティーチングの配置は適切か、イ）発問や学習カードは適切か、ウ）働きかけ・補助・支援などは適切か、エ）対象者（他の学生）は担当グループに協力的か、オ）振り返り時に活発な意見交換ができているか、カ）前時の反省が生かされているか、など。	事前学習	提案グループの指導案を読み、授業の流れを把握する。
		事後学習	省察検討会において指摘を受けた部分やディスカッションを参考にして次時の授業に活かせるようにする。
第6回	模擬授業④・⑤・⑥器械運動系（器械器具を使つての運動遊び、器械運動）の模擬授業と省察検討会。＊模擬授業評価（相互評価および教員評価）の観点は第5回と同じ。	事前学習	提案グループの指導案を読み、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に活かせるようにする。
第7回	模擬授業⑦・⑧ボール運動系1（鬼遊び、ボールゲーム）の模擬授業と省察検討会。＊模擬授業評価（相互評価および教員評価）の観点は第5回と同じ。	事前学習	提案グループの指導案を読み、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に活かせるようにする。
第8回	模擬授業⑨・⑩ボール運動系2（ゴール型、ネット型、ベースボール型の中から選択）と体づくり運動系（体ほぐしの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊び、体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動、体づくり運動、体ほぐし運動）の模擬授業と省察検討会。＊模擬授業評価（相互評価および教員評価）の観点は第5回と同じ。	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に活かせるようにする。
第9回	模擬授業⑪・⑫・⑬保健領域（健康な生活、体の発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防から選択）とオリンピック・パラリンピックに関する指導の模擬授業と省察検討会。＊模擬授業評価（相互評価および教員評価）の観点は第5回と同じ。	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に活かせるようにする。
第10回	講義・グループワーク「体育を映し出すメディアとしてのスポーツ」。本時では、従来までの学校体育（スポーツ教育）の問題点について学ぶ。	事前学習	参考書『身体教育の思想』の第三章「身体教育とスポーツ経験」を熟読する。
		事後学習	参考書『身体教育の思想』を参考にしながら、これまでの体育授業の問題点について考察する。
第11回	講義・グループワーク「教育の基本原則としての「勉強」から「学び」へ」。本時では、指導案を忠実に実践しようとする「プログラムの実践」ではなく、教師と子どもたちの関係性のなかで編み直される「プロジェクトの実践」への意識改革の必要性について学ぶ。	事前学習	参考書『教育における身体知研究序説』と参考書『学びの快楽』を熟読する。
		事後学習	参考書『教育における身体知研究序説』と参考書『学びの快楽』を参考にしながら、「勉強」型の体育と「学び」型の体育の違いについて考察する。
第12回	講義・グループワーク「教育の基本原則としての「勉強」から「学び」へ」。本時では、指導案を忠実に実践しようとする「プログラムの実践」ではなく、教師と子どもたちの関係性のなかで編み直される「プロジェクトの実践」への意識改革の必要性について学ぶ。	事前学習	参考書『異質共同の学び—体育からの発信』の第一章「体育の『個別化』『個性化』学習批判」を熟読する。
		事後学習	参考書『学びの快楽』と『異質共同の学び—体育からの発信』を参考にしながら、「めあて学習」の問題点を考察する。
第13回	講義・グループワーク『運動文化論』の到達点と課題。本時では、「勉強」から「学び」へという現代教育学の要請に、「運動文化論」の理論と実践がどこまで応えられているかを検証する。	事前学習	参考書『異質共同の学び—体育からの発信』の第二章「異質共同の学び—グループ学習論」を熟読する。
		事後学習	参考書『学びの快楽』と『異質共同の学び—体育からの発信』を参考にしながら、「グループ学習」の問題点を考察する。
第14回	講義・グループワーク「保健のなかの身体と輝ける感性体験の交流」。本時では、学習指導要領にも明記されている「心と体を一体としてとらえる」ことの意味と、身体感性論にもとづく体育（身体教育）の意義について学ぶ。	事前学習	参考書『教育における身体知研究序説』の第六章「ドレイファスの人工知能批判と身体教育」と参考書『身体教育の思想』の第五章「身体感性論」を熟読する。
		事後学習	参考書『教育における身体知研究序説』と参考書『身体教育の思想』及び『学びの快楽』を参考にしながら、体育における「学び」とは何かについて考察する。
第15回	講義・グループワーク「まとめ」。これまでの授業を振り返りながら、「学び」を実現させるための反省的実践（家）と身体教育（新しい体育）の関係についてその要点をまとめる。	事前学習	参考書『教育における身体知研究序説』を熟読する。
		事後学習	「学び育ちあう関係」のなかで実践される体育授業（身体教育）の特徴と、反省的実践家としての体育教師に求められる力量について考察する。

